



特別勘定(世界分散型40AL(501)/世界分散型20AL(502))

四半期運用レポート

2023年1月～2023年3月

【利用する投資信託の委託会社】

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社は、ステート・ストリート・グループの資産運用部門であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(SSGA)の東京拠点です。1998年10月1日に業務を開始、投資信託・投資顧問業務を幅広く展開しています。

ステート・ストリート・グループは1792年に米国ボストンで設立されたステート・ストリート銀行を中核としており、同行は世界最大級の預かり資産とネットワークを有するカストディ銀行として、卓越した財務内容と高い信用力を誇ります。SSGAは、最先端テクノロジーと高度な運用技術を駆使したクオンツ運用に定評があり、特にインデックス運用では世界有数の資産運用会社として評価されています。

- ・ 当保険商品は特別勘定で運用を行います。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、特別勘定の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」等をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額個人年金保険(06)

特別勘定の四半期運用レポート (2023年1月~2023年3月)

- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境

【日本株式市場】

日本株式市場は上昇し、TOPIX(東証株価指数)は、前期末比+5.91%の2,003.50ポイントで終わりました。期初より、中国のゼロコロナ政策の終了や円安による業績回復期待、欧米株式市場の堅調な展開を受けて上昇して始まりました。その後、米国の地方銀行であるシリコンバレー銀行の破綻等を受けて金融不安に対する懸念から下落し、上昇幅を減らしました。金融不安を払拭すべく、米国政府が預金の全額保護を打ち出すなど迅速に対応したことを好感し、日本株式市場は期末にかけて上昇して引けました。

日本の小型株式市場は上昇しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇し、NYダウ工業株30種は前期末比+0.38%の33,274.15ドルで終わりました。期初より、インフレのピークアウトを背景に政策金利の引き上げのペースが緩やかになるとの観測から、米国株式市場は堅調に始まりました。その後、米国の地方銀行であるシリコンバレー銀行が破綻したことにより、金融不安に対する懸念が高まり下落しました。期末にかけては、当局が預金の全額保護を打ち出す等迅速に対応したことや長期金利が低下したこと等を好感し値を戻し、下落幅を縮小しました。期を通じては上昇しました。

欧州株式市場は上昇し、独DAX指数は前期末比+12.25%、仏CAC40指数は前期末比+13.11%で終わりました。期初より、長期金利の低下や中国のゼロコロナ政策の終了による景気回復期待等から上昇して始まりました。その後、シリコンバレー銀行の破綻や欧州の大手金融機関であるクレディ・スイスの株価の急落等を背景とした金融不安に対する懸念により下落し、上昇幅を減少させました。期末にかけては、金融不安に対する懸念を払拭するために米国当局が迅速に対応したことやUBSがクレディ・スイスを救済買収したこと等を好感し上昇しました。

新興国株式市場は上昇しました。先進国リート市場は下落しました。

【日本債券市場】

10年国債の金利は低下(価格は上昇)し、期末には0.351%となりました(前期末0.422%)。期の前半は、日銀の追加的な金融緩和の修正観測が根強く長期金利は上昇しました。その後、米国の地銀の破綻等を受けて金融不安に対する懸念が台頭し、欧米の金利が低下したことを受けて、期末にかけて日本の長期金利は低下しました。

【外国債券市場】

米国債券市場では、10年国債の金利は低下(価格は上昇)し、期末には3.468%となりました(前期末3.875%)。期初より、インフレのピークアウト感が出てきたことから、米国の長期金利は低下しました。その後、景気や物価の上振れを示す指標が発表されたことや「インフレが鎮静化しない場合、金融の引き締めを再加速させる」との発言がパウエルFRB(連邦準備制度理事会)議長から出たことを受けて長期金利は上昇しました。期末にかけて、米国の地銀であるシリコンバレー銀行が破綻したこと等を受けて、金融不安に対する懸念が台頭し、米国の長期金利は低下しました。

米国ハイ・イールド債券市場は価格が上昇しました。

欧州債券市場では、独10年国債の金利は低下(価格は上昇)し、期末には2.292%となりました(前期末2.571%)。期初よりインフレのピークアウト感が出てきたことから、欧州の長期金利は低下しました。その後、米国の長期金利の上昇を受けて欧州の長期金利も上昇しました。期末にかけては、欧州の大手金融機関であるクレディ・スイスの株価が急落したことにより、金融不安に対する懸念が台頭したこと等を受けて欧州の長期金利は低下しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、米ドル高円安となり、期末には前期末比+0.83円の133.53円となりました。米国金利の低下により、期初より米ドル安円高に振れる展開となりました。その後、景気や物価の上振れを示す経済指標が発表されたことを受けて米国の長期金利が上昇すると米ドル高円安の展開となりました。期末にかけては、米国の地方銀行であるシリコンバレー銀行が破綻したこと等を受けて米国の長期金利が低下したことから、米ドルは対円で下落し上昇幅を減らす展開となりました。期を通じては、米ドル高円安となりました。

ユーロ/円相場は、ユーロ高円安となり、期末には前期末比+4.25円の145.72円となりました。期初は、欧州の金融引き締めに対する観測と日銀の金融緩和に対する観測が拮抗し、概ね横這いの展開となりました。その後、欧州の長期金利が大幅に上昇したことを受けユーロは対円で大幅高の展開となりました。期末にかけては、欧州の大手金融機関であるクレディ・スイスの株価が大幅下落したことから、金融不安に対する懸念が台頭し、ユーロは対円で下落する局面もありましたが、UBSによる救済買収が決定するとユーロは対円で値を戻す展開となりました。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の四半期運用レポート (2023年1月～2023年3月)

・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	利用する投資信託の運用方針
世界分散型40AL(501)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当ファンドは、日本株式インデックス・マザーファンド受益証券20%、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券30%、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券20%、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券30%*を基本配分比率とし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。 * 当ファンドは、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産の50%部分について、原則として為替ヘッジを行います。 ● 各受益証券の時価変動などに伴う基本配分比率の変化に関しては、資産ごとに一定の変動幅を設け調整を行います。 ● 当ファンドの主なリスク ・価格変動リスク ・信用リスク ・カントリーリスク ・為替リスク ● 受益証券の配分に代えて、トータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。(詳しくは、P.4をご覧ください)
利用する投資信託	
4資産バランス40VA <適格機関投資家限定>	
特別勘定名	利用する投資信託の運用方針
世界分散型20AL(502)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当ファンドは、日本株式インデックス・マザーファンド受益証券10%、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券40%、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券10%、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券40%*を基本配分比率とし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。 * 当ファンドは、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 ● 各受益証券の時価変動などに伴う基本配分比率の変化に関しては、資産ごとに一定の変動幅を設け調整を行います。 ● 当ファンドの主なリスク ・価格変動リスク ・信用リスク ・カントリーリスク ・為替リスク ● 受益証券の配分に代えて、トータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。(詳しくは、P.5をご覧ください)
利用する投資信託	
4資産バランス20VA <適格機関投資家限定>	

特別勘定の運用状況

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

世界分散型40AL(501)



世界分散型20AL(502)



※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日を100.00として計算しています。

特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)
2023年3月末	115.87 1ヶ月 0.91%
2023年2月末	114.82 3ヶ月 3.54%
2023年1月末	113.86 6ヶ月 2.11%
2022年12月末	111.91 1年 Δ 3.53%
2022年11月末	116.25 3年 12.85%
2022年10月末	116.91 設定来 15.87%

※ 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)
2023年3月末	97.95 1ヶ月 1.17%
2023年2月末	96.81 3ヶ月 2.01%
2023年1月末	97.07 6ヶ月 0.72%
2022年12月末	96.02 1年 Δ 6.54%
2022年11月末	98.52 3年 Δ 4.91%
2022年10月末	98.33 設定来 Δ 2.05%

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	169,504	0.9%
その他有価証券	18,015,181	99.1%
合計	18,184,686	100.0%

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	25,057	1.2%
その他有価証券	1,990,024	98.8%
合計	2,015,081	100.0%

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の四半期運用レポート (2023年1月～2023年3月)

・投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

4資産バランス40VA<適格機関投資家限定>の運用状況

【運用方針】

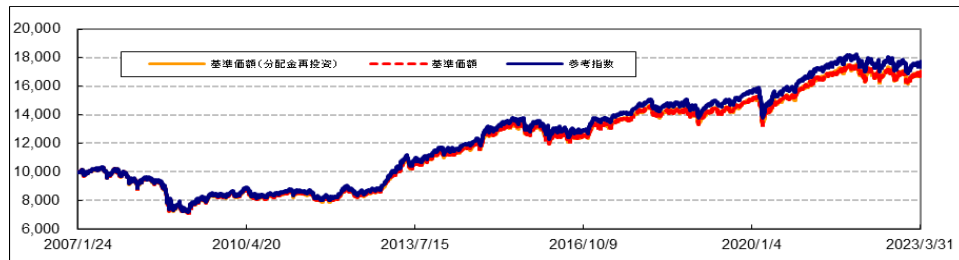
当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。
当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

マザーファンド受益証券の配分に代えて、各マザーファンドを基本配分比率で合成した指数(ただし外国債券の為替ヘッジを行う部分については円ヘッジベース)のリターンと短期金利レートの金利を一定の条件のもとに交換するトータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。

■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク	参照ページ
4資産バランス40VA <適格機関投資家限定>	日本株式	20.0%	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社	TOPIX(東証株価指数配当込み)	6ページ
	日本債券	30.0%		NOMURA-BPI総合指数	6ページ
	外国株式	20.0%		MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)	6ページ
	外国債券(ヘッジあり)	15.0%		FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース) *「4資産バランス40VA<適格機関投資家限定>」は、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外資産の50%部分について、原則として為替ヘッジを行いますので、当該部分のベンチマークは「FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」となります。	6ページ
	外国債券(ヘッジなし)	15.0%			

■基準価額の推移



- ※ グラフは、4資産バランス40VA<適格機関投資家限定>の設定日(2007年1月24日)を10,000として指数化しています。
- ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.165%(税抜0.15%))控除後の値です。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数配当込み)20%、NOMURA-BPI総合指数30%、MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)20%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)15%、およびFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)15%で組み合わせた合成指数です。

■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	17,002円	16,815円	187円
純資産総額(百万円)	25,730	25,812	△82

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.11%	4.15%	3.31%	△1.29%	21.08%	70.02%
参考指数	1.12%	4.21%	3.46%	△1.05%	22.13%	77.55%
差	△0.00%	△0.05%	△0.15%	△0.24%	△1.05%	△7.53%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りは異なります。

■資産構成

金融派生商品を使用する場合、短期金融資産の投資比率が高くなる場合があります。

	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式	20.00%	20.06%
日本債券	30.00%	29.78%
外国株式	20.00%	19.82%
外国債券(為替ヘッジあり)	15.00%	14.78%
外国債券(為替ヘッジなし)	15.00%	15.50%
短期金融資産	0.00%	0.06%
合計	100.00%	100.00%

- ※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
- ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の四半期運用レポート (2023年1月～2023年3月)

・投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

4資産バランス20VA<適格機関投資家限定>の運用状況

【運用方針】

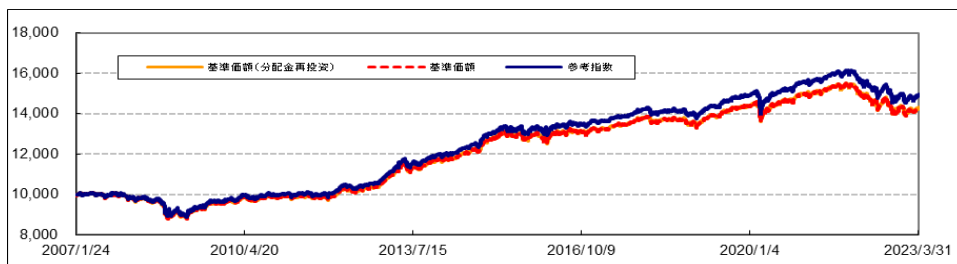
当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。
当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

マザーファンド受益証券の配分に代えて、各マザーファンドを基本配分比率で合成した指数(ただし外国債券の為替ヘッジを行う部分については円ヘッジベース)のリターンと短期金利レートの金利を一定の条件のもとに交換するトータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。

■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク	参照ページ
4資産バランス20VA <適格機関投資家限定>	日本株式	10.0%	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社	TOPIX(東証株価指数配当込み)	6ページ
	日本債券	40.0%		NOMURA-BPI総合指数	6ページ
	外国株式	10.0%		MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)	6ページ
	外国債券(ヘッジあり)	40.0%		FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース) *「4資産バランス20VA<適格機関投資家限定>」は、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いますので、当該部分のベンチマークは「FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」となります。	6ページ

■基準価額の推移



※ グラフは、4資産バランス20VA<適格機関投資家限定>の設定日(2007年1月24日)を10,000として指数化しています。
 ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.165%(税抜0.15%))控除後の値です。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。
 ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数配当込み)10%、NOMURA-BPI総合指数40%、MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)10%、およびFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)40%で組み合わせた合成指数です。

■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	14,315円	14,120円	195円
純資産総額(百万円)	3,405	3,419	△13

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.38%	2.61%	1.91%	△4.42%	1.89%	43.16%
参考指数	1.38%	2.69%	2.01%	△4.21%	2.81%	49.52%
差	△0.00%	△0.08%	△0.10%	△0.21%	△0.92%	△6.36%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しております。
また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

■資産構成

金融派生商品を使用する場合、短期金融資産の投資比率が高くなる場合があります。

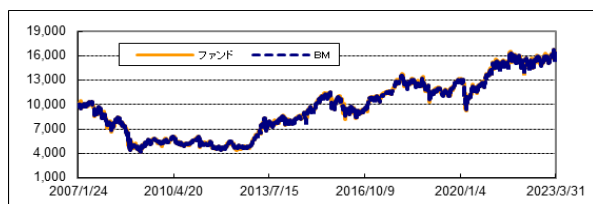
	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式	10.00%	9.81%
日本債券	40.00%	39.70%
外国株式	10.00%	9.92%
外国債券(為替ヘッジあり)	40.00%	40.47%
短期金融資産	0.00%	0.10%
合計	100.00%	100.00%

※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
 ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。
 ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の四半期運用レポート (2023年1月～2023年3月)

《参考情報》日本株式インデックス・マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : TOPIX (東証株価指数配当込み)
※ 2007年1月24日を10,000として指数化しています。

■概況

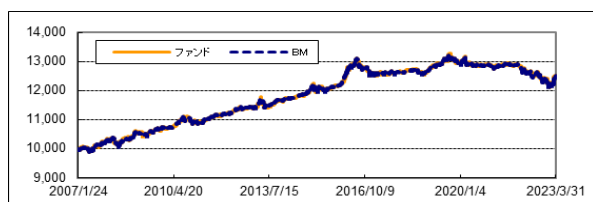
	当月末
純資産総額(百万円)	52,402

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.70%	7.22%	10.72%	5.86%	53.50%	64.50%
ベンチマーク	1.70%	7.21%	10.70%	5.81%	53.38%	63.56%
差	0.00%	0.01%	0.02%	0.05%	0.12%	0.94%

《参考情報》日本債券インデックス・マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : NOMURA-BPI総合指数
※ 2007年1月24日を10,000として指数化しています。

■概況

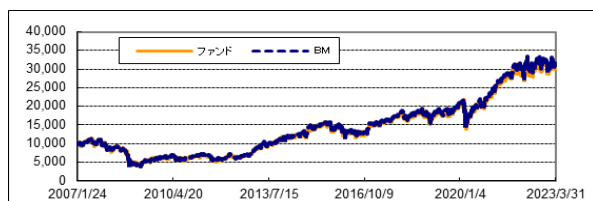
	当月末
純資産総額(百万円)	173,682

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.39%	2.23%	0.28%	△1.68%	△3.54%	24.69%
ベンチマーク	1.40%	2.22%	0.31%	△1.65%	△3.53%	24.60%
差	△0.01%	0.01%	△0.02%	△0.03%	△0.02%	0.09%

《参考情報》外国株式インデックス・オープン・マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)
※ 2007年1月24日を10,000として指数化しています。

■概況

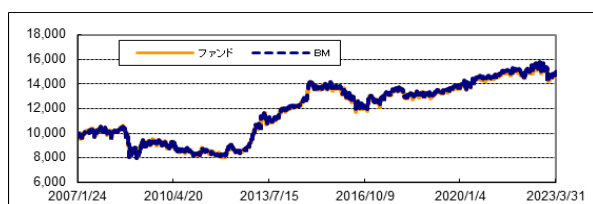
	当月末
純資産総額(百万円)	209,682

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	△0.50%	6.87%	6.71%	△0.98%	95.54%	215.10%
ベンチマーク	△0.47%	6.95%	6.83%	△0.77%	96.53%	223.24%
差	△0.03%	△0.08%	△0.12%	△0.21%	△0.99%	△8.14%

《参考情報》外国債券インデックス・マザー・ファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)
※ 2007年1月24日を10,000として指数化しています。

■概況

	当月末
純資産総額(百万円)	100,175

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.25%	3.70%	△1.52%	△0.96%	5.59%	49.19%
ベンチマーク	1.25%	3.75%	△1.46%	△0.93%	5.83%	50.29%
差	△0.01%	△0.05%	△0.06%	△0.03%	△0.24%	△1.10%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険 (06) の投資リスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払い戻し金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。

〈ご契約時〉

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費	一時払保険料に対して 5.0%	特別勘定に繰り入れる際に、一時払保険料から控除します。

〈積立期間中および年金支払期間中〉

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約関係費	特別勘定の積立金額に対して 年率2.3%	積立金額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、特別勘定の積立金額から控除します。
運用関係費	投資信託の純資産総額に対して 年率0.1650%程度 (税抜:0.15%程度) ^{※1}	特別勘定にて利用する投資信託における純資産総額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、投資信託の純資産総額から控除します。

※1 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。

したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、特別勘定の廃止もしくは統合・運用協力会社の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

〈一般勘定で運用する年金の支払期間中〉

「年金払特約(06)」により年金をお受け取りいただく場合を含みます。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金額に対して 1.0% ^{※2}	年金支払日に責任準備金から控除します。

※2 「年金払特約(06)」によりお受け取りいただく場合は、記載の費用は上限です。年金管理費は、将来変更される可能性があります。

【その他の留意事項について】

■受取総額保証金額(終身型)

受取総額保証金額の最低保証は、年金を特別勘定終身年金でお受け取りいただく場合に限られます。特別勘定終身年金以外の方法でお受け取りいただく場合や、積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。